

命と向き合う医療人として反対



「命と向き合う医師として戦争は絶対に許せない」と訴える高木氏（中央）、中島氏（右端）ら22日、JR甲府駅前

県内医師に賛同呼びかけ

山梨 前県医師会長ら20人

「日々、命と向き合う医療人として、戦争へと向かう安保法案の成立は許せない」。山梨県内の医師に、戦争法案反対のアピールへの賛同を呼びかけてきた「安保法案反対の賛同署名をすすめる山梨県医師の会」は22日、県庁内で記者会見を開き、前県医師会長ら20人の呼びかけ人を発表し、県内医師の過半数から賛同を得ていることを明らかにしました。

発起人は、土地邦彦（県保険医協会会長）、長田忠孝（飯富病院名

善院長）、高木績（山梨勤労者医療協会理事長の3氏。会見には、土地、高木両氏と、呼びかけ人の一人、中島克仁（民主主義衆議院議員）はくと診療所院長）が出席しました。会見では、「立派に成長した子どもを戦場に送り出さない」（小児科医）、「若者の未来を強行採決などというやり方で決めるな」（皮膚科医）など、医師から寄せられた声を紹介しました。

土地氏らは「弁護士や学者、若者が法案反対で頑張っている。医療人も声をあげ、法

案廃案への大運動に合流していきたい。県内約2000の医師の半数以上から賛同を得、看護師や介護従事者のみなさんとも力を合わせていきたい」と話しました。

会見に先立ち、呼びかけ人の医師らは、甲府市のJR甲府駅前で、看護師や病院職員ら110人と訴えました。

国民主権を
ないがしろに
東京山宣会が声明

戦前、反戦平和を掲げ、治安維持法に反対して右翼に暗殺された代議士・山本宣治の顕彰活動をしている「東

京山宣会」（山田善一郎会長）は21日、自民、公明両党が16日の衆院本会議で戦争法案を強行採決したことに抗議する声明を発表しました。

声明は、自衛隊員を殺し殺される状態の中に送り込む違憲の法案であることが明らかに

なり、国民の多数が反対しているにもかかわらず、法案が強行採決されたことは、国民主権をないがしろにするものだと批判。「戦前の侵略戦争に反対してきた先人達の遺志を引き継ぎ、法案の廃案をめざして奮闘する」としています。